

俺たちの最後の夜 脚本

貴一（NA）俺たちの最後の夜
貴一 ああ。さよなら。

SE：ラジオから流れるラジオ番組

貴一 ……ん、あ、いつの間に寝てたんだ俺、（時計に目をやり）6時。疲れてんのかな、こんな時間に寝た
チとは。

SE：ノックの音

陽太 兄貴、ちよつといい？
貴一 ん、陽太？ いいぜ

SE：ドアが開く音

陽太 何してた？
貴一 ああ、企画書書いてただけど、いつの間にか眠ってた。

SE：ラジオのスイッチを切る。ラジオが消える。

陽太 なんだっけ、新しいプロジェクトだっけ？
貴一 そう、イベント事業部立ち上げるから、企画書書けっってお達しでな
陽太 大変そうだね
貴一 まあな。でも俺もプロジェクトリーダーだから。
陽太 課長代理、だっけ？
貴一 うん。しかし「代理」ってなんだろうな？ よくわからん肩書さだ。
二人 はっはっはっはっ！
貴一 それで、なんか用か？
陽太 まあね。

SE：部屋に入ってくる陽太の足音

陽太 たまにはサシで飲もうかと思っ

SE：陽太が床に座る音。テーブルに置かれるいくつもの缶とグラス

貴一 なんだよ、珍しいこともあるもんだな
陽太 明日の準備も済んだし、あとは寝るだけだからね。なんかやり残したことないかな、と思っさ
貴一 で、これがその「やり残したこと」か？
陽太 まあね。俺が就職した頃はよく飲んだじゃないか、麻夜香さんと一緒に、あ、ごめん

SE：缶を開ける音

貴一 ん、何が？
陽太 え、いや……

SE：グラスにビールを注ぐ音

貴一 あのな、あいつと別れてもう10年も経つの。いつまでも気にしてねえよ

SE：グラスを置く

陽太 でも……

貴一 ほら、注げ
陽太 うん……

SE…缶を開ける音、グラスにビールを注ぐ音

貴一 よし、じゃ乾杯だ。ほい
陽太 ー。乾杯

SE…グラスがぶつかる音。飲む音

二人 あー、上手い。(顔を見合わせ) ……はっはっはっはっ！

陽太 で、最近どうなのさ？

貴一 あ？ なんだよ、藪から棒に

陽太 傍から見ててもあんまり楽しそうに見えないからさ

貴一 まあ、楽しくはないかな？

陽太 やっぱり

貴一 でも、別に辛いとかそういうこともないよ。フツ―

陽太 フツ―ね……

貴一 なんだよ？

陽太 別に

時間経過

SE…時計の音。ポーン。

貴一 あ、もう二時か。そろそろ寝たほうがいいんじゃないか？ 新郎が遅刻なんかしちや幸先悪すぎるぞ？
陽太 うん。……あのさ。

貴一 なんだ？

陽太 兄貴、結婚する気ないの？

貴一 またそれかよ。ないな。全然

陽太 やっぱり麻夜香さんが

貴一 ほんとかどいな、お前

陽太 兄貴譲りだよ

貴一 あ、そ

陽太 だって麻夜香さんのことがあったからとしか思えないよ

貴一 ……

問

貴一 俺譲りって言われたら言うしかねえな、まったく、お前には負けるわ。正直言うとな、麻夜香と別れたこ

とはまだ重くのしかかっている。でも、あいつ以上の女はいないとか、そんなんじゃない。全く別の話だ。

お前はさ、何だかんだ言っても、男なんだよ。でも、俺は子どもだ。子どもじゃ結婚なんてできない。

淋しいこと言わないでくれよ。兄貴だろ？

陽太 聞いたのはお前だろ！

貴一 そうだった。

陽太 まあ、その兄貴として忠告するなら

貴一 するなら？

陽太 智ちゃんのこととは絶対に手放すな。逆に言うと、見捨てられるような事をすんなって事だけど。

陽太 兄貴

貴一 彼女のこと好きなんだろ？ すきすきソング歌っちゃうくらい好きなんだろ？

陽太 なんで知ってんの、俺がすすきソングを歌詞を見ないで歌える事を

貴一 いや、そこまで知らない

陽太 ああつ！

貴一 だから！

陽太 うん

貴一 うまくやれ。あと、俺には出来ない事。

陽太 何？

貴一 孫。俺も父さん達には色々言われたけど、残念ながらその期待には応えられないから。お前が喜ばしてやってくれ。生まれてきた俺の甥や姪にしちゃ、俺みたいなお父はイヤでイヤで仕方ないかもしれないけどな

陽太 兄貴

SE：携帯の呼び出し音

貴一 あ、電話

SE：携帯をテーブルから持ち上げ、開き、通話ボタンを押す

貴一 もしもし、宏子？ どうした、こんな時間に。

SE：立ち上がる陽太

貴一 あ、ちょっと待って。陽太！

陽太 え？

貴一 結婚、おめでとう